

宮脇遺跡 第73地点

遺跡名	宮脇遺跡
よみがな	みやわき
調査地点	第73地点
主な時代	縄文時代中期後半（約4,900～4,500年前）
調査地	羽沢三丁目
調査面積	624.18㎡のうち、約50㎡
調査期間	令和7年5月19日～令和7年5月23日
調査内容	<p>【確認された主な遺構】 縄文時代中期後半の屋外埋設土器など</p> <p>【出土した主な遺物】 縄文土器</p> <p>【概要】 宮脇遺跡は、権平川の流れによって形成された小支谷に面した台地上に立地し、諏訪の森や上鶴馬氷川神社の西側に広がっています。遺跡範囲の大部分で開発に伴う発掘調査が実施され、縄文時代、古墳時代、奈良時代～平安時代を主とした、多くの遺構・遺物が確認されています。</p> <p>今回の調査は、上鶴馬氷川神社の北西に隣接した地点で行われ、縄文時代中期後半の埋設土器を主に調査しました。埋設土器は4基確認され、そのうち3基は屋外に埋設されたものと考えられ、墓の可能性ががあります。</p> <p>1基は住居跡の炉として使用された埋設土器（炉体土器）と考えられます。このような、土器を埋設した炉を埋甕炉<small>まいようろ</small>といいます。</p>



屋外埋設土器



屋外埋設土器の断面



炉体土器。底の土は赤く焼けている。
土器の底部が故意に打ち欠かれている。



埋甕炉の断面